第２学年　国語科学習指導案

２組　計２５人　（男子１３人，女子１２人）

指 導 者　　木　田　　博

１　単　元　　「だいじなところに　気をつけて　よもう」

（教材「サンゴの海の生きものたち」　光村２年上）

２　単元について

(1)　単元の価値

本学級の子どもたちは，教材「たんぽぽのちえ」で，時間的な順序を考えながら内容の大体を読む学習をしてきている。また，その際の読み取り方として，時間を表す言葉や理由を表す言葉，まとめる言葉などに着目するという方法を身に付けてきている。

そこで，これまでの学習を生かして，様々な説明の中から大事なところ（中心的な対象や事柄）に着目し，その書かれている事柄の順序を考えたり，二つの事例を比べたりしながら内容の大体を読むことをねらいとして本単元を設定した。

教材「サンゴの海の生きものたち」は，海の生き物の共生について書かれた説明的文章である。文章全体が，大きく４つのまとまりで分かりやすく構成されており，海に生きる生き物たちの不思議な生態に興味をそそられる内容である。

本単元で子どもたちは，接続語や指示語に着目して読むことのよさを再認識すると共に，大事な言葉や文に着目して読むと，内容の大体がつかみやすくなることを新たに理解することができる。また，「かかわり合い」というキーワードで生き物の関係を考えることで，本教材文のもつ本質的価値である「共生」に気付くこともできる。さらに，生き物について書かれた本を読み，そこから不思議に感じたことなどを抜き出し，それをもとに「生きものカード」に再構成してまとめることで，大事なところに着目するという本単元での「学び」を発揮することもできる。

ここでの学習は，読み取りの正確さを確認する活動を通して，叙述の順序を考えながら読む「一本の木」の学習へと発展していく。

(2)　単元の目標

○　海の生き物に興味をもち，それぞれのかかわり合いを読み取ったり，関連する本を探して読んだりする。　【国語への関心・意欲・態度】

○　図書の本などを読み，伝えたい大事なことは何かを考え，「生きものカード」にまとめることができる。　【書く能力】

○　海の生き物が，互いにかかわり合っていることを，事柄の順序を考えながら読み取ることができる。

○　語や文としてのまとまりを考えながら，声に出して読むことができる。　【読む能力】

○　片仮名を読んだり書いたりし，片仮名で書く語を，文や文章の中で使うことができる。　【言語についての知識・理解・技能】

(3)　子どもの実態

ア　教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは，国語の学習を好み，意欲的な学習態度で授業に臨んでいる。書く活動については，自分の考えをまとめたり，友達の発表に対するコメントを書いたりする活動を通して，短時間で書きたいことを上手に整理しながら書くことのできる子どもが徐々にではあるが，増えてきている。しかしその一方で，個人差に対応した指導が必要となっている。読解においては，何度も読むことで内容の大体をつかむことはできているが，主述の関係や指示語の指し示す内容を，正確に読み取ることが難しい子どももいる。話合いについては，ペアやグループでの活動を重ねながら，ほとんどの子どもが事前に準備した内容については発表できるものの，理由や気持ちなど自分の考えを発表する子どもは限られている。

イ　本単元の内容にかかわる実態

①　「どうして～でしょう。」が問いの文であることを指摘できるか。	
適切にできている　２３名	十分ではない　２名
②　「それは～からです。」が答えの文であることを指摘できるか。	
適切にできている　１９名	十分ではない　６名
③　指示語「この」の指し示す文を指摘できるか。	
適切にできている　１９名	十分ではない　６名
④　順序を表す言葉に着目し，文を時間の経過に合わせて適切に並べ替えることができるか。	
適切にできている　２１名	十分ではない　４名
⑤　時を表す言葉「春になると」を指摘できるか。	
適切にできている　２３名	十分ではない　２名
⑥　逆接の接続語「でも」を指摘することができるか。	
適切にできている　１９名	十分ではない　６名
⑦　教材に出てくる海の生き物を知っているか。	
サンゴ　２５名　イソギンチャク　２５名　クマノミ　２１名	
ホンソメワケベラ　２０名　タカサゴ　１２名　ハタ　９名	

説明的文章においては，「問いの文」よりも「答えの文」を見つけ出すことが困難な子どもが多い。また，指示語や時や順序を表す言葉についての理解に個人差が見られるため，個別指導の必要な子どもがいる。前単元までに学習し，本教材においても使われている「でも」という言葉については，それが逆接の接続語であることを，まだ４分の１の子どもたちが理解できておらず，改めて取り上げて指導を行う必要がある。海の生き物については，教材「スイミー」での学習で，関連する海の生物について取り上げて調べたり，その写真を掲示しておいたりしたため，ほとんどの子どもたちが１０種類以上の魚や水棲生物の名前を挙げることができる。また，事前に家庭での音読で本教材を既に読んでいる子どもも多く，本教材に生物名が登場する生き物については，多くの子どもたちが知っている。

３　指導に当たって

本単元の指導に当たっては，子ども一人一人の「学び」が生きるように，以下の点に留意して指導していく。

○「つかむ」場面では，教材「たんぽぽのちえ」を説明的文章のプレ教材として提示し，主語と述語の関係，問題の文「なぜ～でしょう。」，理由を表す言葉「～からです。」，事柄の順序などを想起できるようにする。また，実際にはほとんど目にすることのないサンゴの海をイメージできるように，関連するビデオを視聴させたり，海の生き物の写真を掲示したりする。さらに，本単元で学習したことを生かして「生きものカード」作りを行い，それを１年生に紹介する活動を行うことを知らせ，目的をもって読み進めることができるようにする。

○「深める」場面では，２つの生き物の特徴やかかわり合いを叙述に即して読み取れるように，写真と叙述をつなぐワークシートを準備する。次に，海の生き物たちのかかわり合いについて，図や絵を使ったり，ふきだしにまとめたりしながら，その時間毎に学習したことを整理できるようにする。また，子ども一人一人が「生きものカード」作りをする前に，教材文を離れ，異なる生きものの特徴や不思議について，まとめる活動を行う。これにより，教材文での「学び」を，他の場や活動において生かしやすくするために必要な「学び」の整理を行うようにする。

○「味わう・高める」場面では，「生きものカード」の書き方について，具体的な例を示しながら，順序立てて書くことができるようにする。特にここでは選んだ本をただ転記するのではなく，個人差に対応しながら，必要な部分のみを選び，抜き出しながら書くことができるようにする。

○「まとめる・広げる」場面では，自分が調べた海の生き物を「生きものカード」にまとめて，１年生に紹介する活動を行う。この活動を通して，海の生き物の特徴や不思議について，学習したことを基に再構成するとともに，他者意識を持ちながら発表することができるようにする。

4　指導計画（全１１時間）

［　　］は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教　師　の　指　導
つかむ	2	1　説明的文章での学習内容と学び方を想起する。 2　写真や映像をもとに，海の中の世界をイメージし，そこに暮らす生き物について思ったことなどを話し合う。 3　教材文「サンゴの海の生きものたち」の全文を読み，学習課題をつかみ，学習計画を立てる。 生きもののふしぎをしらべ，１年生に紹介しよう。	○　教材「たんぽぽのちえ」の文章を使って，説明的文章で身に付けておくべき内容と方法を確認できるようにする。 ○　サンゴの海と生き物の様子がイメージできるような写真と映像を準備する。 ○　並行読書ができるように，関連図書一覧に書かれている本を準備し，読書コーナー作りをする。 「生きものカード」作りへの見通しをもち，意欲を高めることができたか。 （発表・観察）【国語への関心・意欲・態度】
深める	6 （本時6／6）	4　新出漢字や分からない言葉を調べたり，片仮名の練習をしたりする。 5　教材「サンゴの海の生きものたち」を読む。 ○　イソギンチャクとクマノミの特徴 ○　イソギンチャクとクマノミのかかわり合い ○　ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合い ○　かかわり合いを動作化して確認し，まとめる。 **6　補助資料を基に，異なる生きものの特徴や不思議について，これまでの「学び」を生かしてまとめる。**	○　叙述と写真を関連させたワークシートを子どもの実態に応じて活用することで，生き物の特徴やかかわりについて考えながら読み取ることができるようにする。 ○　海の生きものたちのかかわり合いについて読み取ったことを，図や絵を使ったり，ふきだしに書いたりすることで，学んだことを自分なりに整理できるようにする。 ○　教材「たんぽぽのちえ」と比較することで，「でも」「からです」「のです」が同じように使われていたことに気付くことができるようにする。 海の生き物が，互いにかかわり合っていることを，事柄の順序を考えながら読み取ることができたか。 （ワークシート・発表）【読む能力】
味わめうる	2	7「生きものカード」作りについて話し合う。 8　図書室の本を選択して読み，そこから必要な情報を収集する。 9　大事なことをノートにメモする。 ○　生き物の名前や特徴 ○　特徴の分かる絵	○　参考作品をもとに，「生きものカード」の作り方について確認できるようにする。 ○　本から何を書き出せばよいのか，再度確認し，すべてを写すのではなく，必要な部分だけを抜き出すように助言する。 図書館の本などを読み，伝えたい大事なことは何かを考え，「生きものカード」にまとめることができたか。 （作品・観察）【書く能力】
ま広とげめる	1	10「生きものカード」にまとめる。 11　学習のまとめをする。 ○　完成したカードを１年生に紹介する。	○　完成した「生きものカード」を使って，１年生に紹介することで，学習の成果を実感できるようにする。 ○　大事なことに着目して読むことのよさについて書いている子どもを紹介する。

５　本　時（８／１１）

(1)　目 標　教材文での学習を生かして，異なる動物の特徴や不思議についてまとめることができる。

(2)　展 開

教師の言葉掛け　　予想される子どもの反応　　重点評価項目　　◆は個に応じた指導

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ(5)	1　前時の学習を振り返る。 教材文「サンゴの海の生きものたち」には，問いの文とまとめの文が書かれていたよ。 生きもののかかわり合いのことが二つ書かれていたよ。	○　前時までの学習をノートや掲示を基に想起させ，教材文の特徴について確認する。 ○　教材文の文章構成について，掲示物を使用しながら，視覚的に大まかにとらえさせるようにする。
深める(25)	2　本時の学習課題を確認する。 「○○のふしぎ」についてわかりやすくまとめよう。 3　学習の進め方について確認する。 ①　○○についての資料を読む。 ②　資料に書かれている○○の特徴や不思議だと思う部分にサイドラインを引く。 ③　○○の特徴や不思議について，これまでの学習を生かしてまとめる。 ④　グループで発表し合う。 4　○○についてのビデオを見ながら資料を読み，ワークシートにまとめる。 どんなことに気をつけてまとめたらいいかな。 不思議なことは何か，その理由は何かに気をつけて読めばいい。 「～でしょうか。」という問いの文や，「こうして」という言葉を使ってまとめの文を書いたらいい。 「でも」という反対のことを言うときに使う言葉も使ったらいい。 １年生が聞いていて，わかりやすいような文にする。	○　教材文を離れ，異なる生きものの特徴や不思議についてまとめる活動を取り入れることで，教材文での「学び」を整理し，「生きものカード」作りに生かすことができるようにする。 ○　文字資料とビデオを併用することで，子どもたちが興味をもって「○○のふしぎ」についてまとめようとする意欲を高めながら，生きものの特徴等をイメージできるようにする。 ○○のふしぎについて，教材文での学習を生かして自分なりにまとめることができたか。 （ワークシート・発表）【書くこと】 ◆　ワークシートに適切にまとめられている子ども →　既習の内容に加えて，自分なりの工夫を取り入れたり，言葉を付け加えたりできるように助言する。 ◆　なかなかワークシートに書けない子ども →　書く量と内容を調整したワークシートを準備する。また，状況に応じて書き込み式のワークシートを提示し，それを基に書くことができるようにする。
高味めわる(10)	5　ワークシートにまとめた「○○のふしぎ」についてグループで発表し合う。 Ａさんは，ぼくとちがうところに○○のおもしろさを見つけたんだな。 Ｂさんは，問いの文とまとめの文がしっかりと書けているな。 Ｃさんの「でも」という言葉の使い方は，ぼくもまねしてみよう。	○「よかったよカード(付箋紙)」を使い，互いのまとめ方のよさや既習の「学び」の生かし方について相互評価できるようにする。 ○　本時の学習を振り返りながら，実際に自分で書くことにより，教材文の書き方のよさについて，改めて考えられるようにする。
まとめる(5)	6　本時の学習をまとめる。 生きもののふしぎについて書く時も，問いとまとめの文を入れたり，いろいろなつなぎ言葉を使ったりすると，わかりやすい文を書くことができる。 7　次時の学習を確認する。 次の時間は，自分で見つけた生きもののふしぎについて，一年生に紹介する「生きものカード」の作り方について話し合うんだな。	○　本時の学習の成果について，価値付けるとともに称賛することで，次時における「生きものカード」作りの活動に期待と意欲をもたせることができるようにする。